

LEGAL FRONTIER

LEGAL FRONTIER

OBERON

KOTC

Best Gear

Keele

ポッカサッポロ

MAVIC

CATACLEAN

大塚技研

Kingelt

KTM



RACE REPORT

SuperTaikyū
Japanese Endurance Race

2023 Round.07

FUJI

Qualify : NOVEMBER 11 / 2nd RACE : NOVEMBER 12 / 2nd

PRACTICE

NOVEMBER 9- 10 [THU/FRI] FINE / DRY - CROUDY&RAIN / WET

3月に開幕した2023年のスーパー耐久シリーズは、長い戦いを経てシーズン最終戦を迎えた。舞台は今季2回目となる富士スピードウェイ。シンティアムアップル KTMは第2戦富士 SUPER TEC 24時間レースで今季初勝利を得て以降4連勝を飾り、この最終戦は完走すればチャンピオンを得ることができる。

しかし今回、ライバルとなる#47 アストンマーティンがドライバー体制を変更。盛り上げのためにプロドライバーをふたり揃えてきた。Aドライバーにプロを据えることで90秒ストップのハンディキャップが課せられるが、シンティアムアップル KTMにとっては楽な展開になるようで、好勝負を展開しそうな予想もできない一戦となった。

とはいえ、まずは自分たちのレースをきっちりとこなさなければならない。走行開始となる11月9日(木)は晴天のもとスポーツ走行枠を使い、加藤寛規がクルマのバランス等を確認するなどの作業を行っていった。

ただ、走行2日目の11月10日(金)の富士スピ

ードウェイは曇り空。井田太陽から走行を開始したものの、ポツポツと雨が降り出し、開始から20分を過ぎたあたりから雨脚が強まった。

そんななか、加藤がブリヂストンのウエットタイヤを使い、セットアップなどを研究。午後は完全なウエットとなってしまう、土日はドライが予想されたことから、走行を見合わせるようになった。



PETRONAS
Syntium